

## <TSUBASAからのメッセージ>

お迎えをご希望されている方へ

この度は Meet The Birds 里親会（以下、MTB）に関心を持っていただけてとても光栄に思います。

私たちは長年、鳥たちの MTB を開催してきました。

MTB を開催するにあたって、私たちが考えることは、「鳥たちの幸せのため」ということです。

その答えは簡単に出せるものではありません。

鳥たちにとって何がベストなのか、私たちの今まで活動も含めて、事務局及び鳥のお世話してくださる方、そして健康診断や治療をしてくださった獣医師の先生方ともじっくり話をさせていただきました。

その上で、鳥たちのお迎えを考えていらっしゃる方に私たちの想いをお伝え致します。

以下の内容をお読みいただいた上で、ご自身の環境やライフスタイルが、鳥達にとっても幸せに暮らせるかどうかをお考えいただけたら幸いです。

まず、鳥たちの状況をお話します。

・鳥たちの年齢、今後の健康については不明です。

若い鳥に見える鳥もありますが、そうではない鳥もあります。

健康診断を行い、治療（投薬）をしましたが、今後いつ、どんな病気を発症するか分かりません。もしかしたら、連れて帰った直後（数日後）に体調を崩すかもしれません。

・雌雄の判別はできていません。

推測での判断は危険なので、もし判別を希望される方は獣医師とご相談願います。

・鳥たちにとって人は怖い存在です。

孵化したときから人との関わりがなく、鳥の世界で育った鳥たちにとって、人は怖い存在です。

・鳥たちのお世話について

鳥たちが慣れる、馴れる、懐く、保証はありません。

鳥たちは手乗り鳥ではない親鳥（荒鳥）に育てられています。

すでに成鳥になった鳥なので、これから手乗り鳥になることは非常に困難でしょう。

そのためケージから出したり戻したりできません。

一度ケージから出すと、全力で飛びますので壁やガラス窓に激突し、大怪我する可能性があります。

また、捕獲するために網などを使わなくてはならなくなり、そこでまた怪我をすることも考えられます。

たしかに鳥はとても賢いので、きちんとしたお世話と、揺るがない愛情を持って育てれば、いずれ関係が良くなるでしょう。

しかし、それは1、2年以上、あるいはもっと長いスパンで考えなければならぬかもしれません。

また馴れたとして、ケージ越しに人を怖がらなくなった程度かもしれません。

なかには手に乗る鳥もいるかもしれませんが、それはたぶん稀だと思います。

「慣れる」→「馴れる」→「懐く」までに相当時間が掛かることをご理解願います。このような鳥を人と環境に慣らすには次の飼い方をお願いします。

できるだけ広いケージに入れる

ケージは人があまり通らない、静かな場所に置く

できれば人の目線より高い位置に置く

お世話のときに、できるだけ水浴び、日光浴などをさせる

排泄物のチェックを丹念に行う

食事量、飲水量もチェックする

もし、体調に異変を感じたらすぐ鳥が診られる病院に行く

鳥の性格やお世話の仕方によりますが、「慣れる」までに1年以上はかかるかもしれません。

「慣れる」から「馴れる」までにもさらに時間がかかることが予想されます。

触らせてくれたり、手に乗るという「懐く」という段階までいくことはかなり困難です。

この鳥たちの幸せは何だろう？と思ったとき、人との生活の中で、お互いが干渉し合わない適度な距離感を持って接してほしいと鳥たちが望んでいるかもしれません。

その中で、もしかしたら人に対して友好的な鳥がいる場合は、「馴れる」、「懐く」にチャレンジしていただけたらと思います。

・MTBで同じ鳥に複数の方が応募された場合

ヒアリングシート及び面接において決定させていただきます。

誰かに必ず決まるわけではありません。決まらない場合もあります。

その場合、残った鳥はTSUBASAで引き取り、次の機会に回します。

鳥を引き取ることで人が幸せになることより、「鳥が幸せになる」ことを優先します。

鳥を引き取ることで「すでにいる鳥」が幸せになることより、「この鳥が幸せになる」ことを優先します。

・MTBに参加しても、里親になれないこともあります。

複数のお申し込みがなくても、お断りすることがあります。

TSUBASAのMTBのコンセプトが「鳥が人を選ぶ」です。

本来、「飼い鳥」は飼い主を選べません。だからこそ次の飼い主さんの元で幸せになつてほしいと思います。

そのため私たちがヒアリングシートや面接などを行なった上で決めさせていただきます。

大変おこがましいとは思いますが、何卒ご理解いただきたくお願い致します。

・鳥をお世話するには継続してお金がかかります。

1年に1～2回以上の健康診断（要オウム病等の検査含む）、信頼できる食事の提供、鳥にとって安心して快適な環境の提供、など

・最期まで揺るぎない愛情を注いでほしい。

慣れないからといって諦めないでください。揺るぎない愛情があれば、最初は人を怖がる鳥であっても、いつかは心を許し、心の距離を縮めてくれると信じています。

・ご自身の「もしもの時」に備えてほしい。

あつてはならないことですが、ご自身の「もしもの時」のために、いつでも鳥の引き継ぎができるようにしていただきたいと思います。

・尊い命を預かる。

小さな鳥ですが、命の重みに人も鳥も関係ありません。尊い命を預かる以上、覚悟を持ってお世話し、愛情を持って楽しく暮らしてほしいと願うばかりです。

以上